

松尾参事官が資料 31-1(宇宙政策の推進)を 6 分余で説明した後、10 分弱の質疑応答があった。(宇宙の利用がドライブする成長の実現、宇宙外交の推進、最先端科学・技術力の強化の三つに分類され、夫々の中で重点的な開発対象が示されている。)

池上委員長:有難う御座いました。ご質問御座いましたらどうぞ。はい、どうぞ。

森尾:あの一、まあ、政策は非常に具体的に、あの、明示されてるのは非常に良いと思うんですけども、まあ、エエト、あの一、大きく三つある中の、その一、「宇宙外交」なんですけどネ、
、 で宇宙ステーションと、パッケージによる海外展開とありますネエ。あの、これはまあ、これも、当然含まれてんのかも知れないけど、一番目のあの宇宙、地球観測とか、データの利用促進、これは先般も一寸議論があった、例えば APRSAF なんかでの、斯う云うデータをもっと使い易くする¹と

¹ 宇宙外交の最重点は ISS であり、此れを で示している点は「宇宙開発戦略本部」の平衡感覚が優れている証(あかし)だろう。ところが宇宙開発委員の中には、APRSAF の様な活動こそが宇宙外交だと考える方が居らっしゃる様で、其の感覚は危惧する処である。地球観測に関する技術開発は日本政府の為に行なうものであり、其の技術を、宇宙活動の為の技術をもたない東南アジアの国々にも使って頂けるようにし、日本政府のアジア外交の一助にしようと云うのが APRSAF などのプロジェクトだと思う。本末は転倒させないで頂きたい。

【議事(1)】 当面の宇宙政策の推進について(宇宙開発戦略本部決定)

か、或いは、今、その、継続的なデータを使えると云う保証は、まあ、今ん処は無い²訳で、そう云う事ももう一寸斯う、パッケージに含まれてんのかも知れないけども、どうなのかサって事。

池上委員長:其れはアレですか、色々項目が上がってるけど、寧ろ其れをパッケージの方が重要じゃないかと、斯う云う事ですか。

森尾:ウン、何となく、斯う、其れが含まれんのかどうか曖昧なんで、そう云うデータをこう、活用する仕組みそのものも、その一、国内だけの整備の為に云うんじゃない³て、その、もう一寸 APRSAF なんかを視野に入れた、外交的な側面からも考えて良いんじゃないかって云う。

松尾参事官:はい、あの、ご指摘ご尤もだと思いますが、あの、基本的には含まれてると考えてます。あの、今回の決定では、当面の課題、そして関係省庁が連携して取り組む事について主

² アジア外交の力を借りないと地球観測やデータ伝送の宇宙活動が続けられないのなら、止めた方が良いのではないか。国内需要から来る要請に応じてプロジェクトの継続を判断し、其の容量などの詳細仕様決定の際にはアジア外交も配慮すると云うのが、健康的な政治判断だと思われる。

³ 国内の整備の為にプロジェクトを推進する事が事の本質であって、其のシステムの余力、或いは容易に付加できる能力を APRSAF などに活用するのではないか。アジア各国に対する態度が閉鎖的でない様に配慮するのは結構だが、其処は本務ではないと思う。

に書いたと云う事なんですが、其の意味で宇宙外交が、その、パッケージによる海外展開の処が、タスクフォースを設置すると云う処で全て、斯う、体制面の話で全て謂い尽してしまってる感じはあるんですが、ま、此の中の具体的内容は、本来もう一寸あれば、ご懸念の様な点は払拭される⁴のかも知れませんが、あの、此のタスクフォース設置の中に、関係省庁が持ち寄り施策の中に、そう云うのが十分入って居ると云う風に認識して居りますので、決してエクスクルードはされておらず、先生の仰った趣旨は十分に入っていると思っております。

森尾: はい。

池上委員長: あの、先程あの、ご紹介ありました様にその、「宇宙外交」の中の「宇宙ステーション計画」。で、此れあの一、国が決めたと云う事になりまして、我々としては非常に喜んでおりますですネエ、特別部会の中で非常に議論を致しました。あれは4月から始まって6月、延々と18時間、丸々議論したと云う事でありまして、最初は、どちらかって云うと、あの一、此れを続けるって事はどんなものかナァと云う様な、その、感じ

⁴ APRSAF の様な言葉を入れ、具体的に言及したら、きっと「書き振りが弱い。」と指摘するのだろう。 のISSに関する記事との釣り合いから、此の程度が適正だと思われる。寧ろ大切なのは、(1)の「宇宙の利用がドライブする成長の実現」の中に地球観測データの充実と其のデータ利用技術の充実を国内向けに示していて、其処で開発された技術に依ってパッケージ化が可能になり、其のパッケージを外交ツールとしても活用すると云う、優れた論理構築だと思う。

が強かったんですが、ま、最終的には日本にとって此れを進めると云う事は、非常にその、国益にとってプラスになる⁵と。で、勿論、利用って云う点でもですネ、従来思い付かなかった様な新しい展開が出来そうだと云う議論があった⁶と云うのは、バックに御座いますけれど、あの、そう云う様な議論の結果認められたと云う事は、非常にあの、宇宙開発委員会としても嬉しく思っています。で、実はですネ、今週の月曜日、火曜日、名古屋で IAA の国際会議があったんですが、其の時に此の辺の事情を良くご存知の方が言われたんですが、あの、当初ですネ、ISS の延長計画は、日本は多分無気位に決めるだろうって云う様な事を、大臣もそんな様な感じだったで

⁵ 其れほど明快に議論が進んだとは感じられなかった。ISS 計画の延長について、最初経済論で議論を始めた為に、継続に否定的な意見が主流を占めて居た。其れが、「若し、止めたらどうなるか」と云う疑問から継続論が強まったと記憶している。其れも「国益にとってプラス」と云う感じではなく、「国益にマイナスになる危惧」と云う感じであった。兎も角、最後まで外交論として ISS 計画の継続を議論しなかった事で、消極的な継続論が決議された様な感じ(部会長がどう感じるかと云う処迄しか議論は無かった。)になったと感じている。戦略本部報告では「外交」の表題の冒頭、 でISSの記している事で、「日本の宇宙外交の要諦はISSである。」と解釈できる。

⁶ 池上部会長以下ほんの数人がエンジニアリング・テスト・ベッドと発言したに過ぎない。経済論で判断するのがお好きな方が多かったにも拘らず、此の様なコストパフォーマンスの悪い案が罷り通るのは如何なものかと感じていた。

すよネ...で、最初。で、其れがネ、こんなに、日本でこんな早く決まったのって事を言われて、「アッ、ア、そんなもんかナ。」と思ってですネ、不思議な感動を覚え⁷ました。確かに、秋位まで掛るんじゃないかと当初考えてたのが、あの一、秋の手前で以て、延長計画について、あの一、方針として、エ一、其れを進めるって云う答が出たと云う事は、今迄余り無かったのかも知れないけど、まあ、我々としても其れだけ積極的に進めて行きたいと云う、あの一、意思の表れだと云う風に思っています⁸。で、更に、宇宙ステーションの補給機 HTV の所謂改良計画についてもですネ、此れはまあ、あの一、押さえて書いては居るんですが、あの、物資の地球回収、物の、要するにカゴの回収と、それから有人技術基盤の向上に

⁷ ISS 計画の初めに参加しないと決断する事より、参加している ISS 計画から脱退すると決断する事の方が、外交的に見た時に負の印象は大きい。だから決断を迷う処は少なく、早期に結論を出せるのに、「日本の決断は遅いだろう。」と考えられていると云う事は、「日本は外交を知らない。」と言われているのと同じではないだろうか。勿論、米国の進駐戦略として「日本の政治力・外交力の低下。」があった為に他ならないので、その力が無くて当然なのであるが、どうしても取り戻さなければならない能力である。そう考えると「不思議な感動」とは何か、どうにも推定できない。

⁸ 細かい話であるが、「我々」とはどの範囲なのだろうか。「宇宙開発戦略本部」が書いた報告書ではあるが、「我々」と言われたら戦略本部だけではない事が明らかである。そうすると、「我々」は「戦略本部 + 宇宙開発委員会」なのか、「宇宙開発委員会」なのか？

繋がる取組、此れあの HTV について言っている訳でありますから、有人宇宙飛行も遠くを考えて言っている⁹、改良計画を進めて行きましようって云う、あの、遠いかも知れないけれど方針が出されたって云う事はですネエ、しかも国レベルで其れを出したって云う事は、私にとって見ると非常に大きなネ、話じゃないかと云う風に思っています。ただ、直ぐ予算が付くかどうかで、此れ又別の話¹⁰だと思っています。そう云う意味で、あの、私は今回のあの一、此の政府決定と云うのはですネエ、かなり日本にとってインパクトを与える様なものじゃないかと云う風に考えて居ります。後あの、アレですか、あの、地球観測については、既に、政府が一体になって取り組むと云うのは、此れはどう云う風に理解したらよろしいですかネエ？

⁹ 勝手な解釈の様に見える。「(2)宇宙外交」の「ISS 計画」の項に書かれていて、「HTV への回収機能付加を初めとした有人技術基盤の向上に繋がる取組を推進する。」となっている。主語が ISS 計画であり、其の目的に有人宇宙技術基盤の向上があるのであって、また、其の一つの具体策として HTV への回収技術付加がある様に読める。HTV を使って有人宇宙活動(飛行士の打上げと回収)を行なうとは解釈出来ない。

¹⁰ 何で別の話になるか分からないが、兎も角宇宙有人活動は無人の宇宙活動に比べて、大変お金が掛る事業であるから、出来る限りゆっくり進めるのが肝要である。また、進み始めてから後退りする様な事は、ポストアポロの前例が示している様に、此れもあってはならないと思う。

松尾参事官: エエト、其れはあの、2 頁目の¹¹の処に書いてあるヤツです。此れはあの、エエト、地球観測衛星のデータの処について、文科省だけでなく、まあ或る種色んな処が...「あすなる」が上げれば、其の「あすなる」のデータも出て参りますし、そう云ったものを色んな視点から、どうやったら利用ニーズがホントに広がって、広げて行く事が出来るかと云うのを、文科省だけ、経産省だとか何とかやってもしょうがないので、あの、当に先程森尾委員が仰った、外国にどうして行くかって事も含めて、どうしたら良いシステムになるかってのを、日本で统一的に考えなきゃいけない、其れを内閣官房が旗を振って、チャンとやって行こうと。斯う云う主旨だと思って居ります。

池上委員長: 他に...あの、科学技術関係で何か、井上さんの方から... ...宜しゅう御座いますでしょうか? あの、局長の方から何かコメントは御座います? 戦略本部が、まあ、斯う云う様な方向を出したと云う事ですけど、文科省の、開発局としてはどうでしょうか?

藤木局長: はい。発言の機会を頂き、有難う御座います。あの、まあ、戦略本部は宇宙基本法が出来て既に 2 年経つ訳ですけども、まあ、基本計画が出来てからも一年。で、まあ、今回斯う云った形で、新成長戦略の前、そして、今回概算要求の前と云った、大変大きな、政府としての動きの節目節目で、斯

¹¹ 「(1)宇宙の利用がドライブする成長の実現」の「地球観測衛星、衛星データ利用促進」の事である。

う云った具体的な方針を出す事が出来たと云う事については、ようやく宇宙基本法の体系がキチッと機能しつつあるかなと云う様な事で、非常に、まあ或る意味で、国家政策としての宇宙政策がキチンと動き出しつつあるなと云う、まあ、当事者としてもそう云う思いで居ります。で、あの、折角斯う云う方針を出して頂いた訳ですから、まあ、概算要求の段階では此れなんだけれど、政府原案や、ホントの予算になった時に此の形がキチッと保たれるように努力すると云うのは、今度は我々各省庁の責任なので、其処をまあ、特に予算額の多い文科省として、確り取り組まなきゃいけないナと云う、まあ、そう云った責任の重さも含めて感じて居る処であります。一寸、感想めいて居りますが、何れにしても、此の、**国家戦略としての宇宙戦略がキチッと動き始めて居ると云う事を、国民一般の方にもようやく、斯う云った姿を現して来た**と云う事で、**感じて頂けるのではないかと云う意味で、非常にポジティブな動きであった**¹²と云う風に思っています。

池上委員長: エエト、どうも有難う御座いました。それではですネ、早速ですが、平成 23 年度文部省の宇宙関係予算、.....(次の議題に進んだ)

¹² 国民に届くメッセージが作られたと云う事は喜ばしく、藤木局長に同感であるが、宇宙開発戦略本部が出来なかった頃の宇宙開発委員会でも出来た事ではないかと云う気持ちは今でも変わらず持っている。現に、前身である総理大臣諮問機関であった宇宙開発委員会は其れを行なって来たのである。